

第 3 回品川区長期基本計画策定委員会 議 事 要 旨

日時：令和元年6月3日（木） 14:00～16:00
場所：品川区役所 議会棟 6 階第 1 委員会室

議事次第

1. 開会
2. 新委員委嘱
3. 委員長挨拶

■委員長

会議に入る前に、前回第 2 回の委員会の議事要旨でございますけれども、あらかじめ皆さまにお送りして、今日、席上で開示させていただいております。この議事要旨で公表してよろしいですか。

■委員

12 ページの上から 6 行目に財産支援センターと書いてあるのですが、これは在宅介護支援センターの間違いですので訂正をお願いします。

■委員長

ありがとうございます。ご指摘のとおりだと思いますので、そのように訂正させていただきます。その他にございますか。

では、これで議事要旨は確定ということにさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それから、今回新しく委員になられた方がいらっしゃいますし、また皆さまにとっても前回から 2 か月近く経っております。おさらいの意味ですけれども、まず第 1 回目は区長から諮問を受けると同時に人口の推計等についてご報告を受けました。それから初回ということで全員の方から、どういったことをこの委員会に期待するかなどについて自己紹介を兼ねて一言ずつお話をいただきました。第 2 回目については区役所から基礎資料の説明がございまして、それから特にこういったことを期待する等について活発なご意見をいただいたかと思えます。これは先ほど確定させていただきました議事要旨にあるとおりでございます。

この後、本日第 3 回は、分野別の素案に入るという予定だったのですが、第 1 回、第 2 回にいろいろ皆さまから積極的なご意見をいただいたということがあったからだと思いますけれども、予定とは多少変わって、こういった骨組みでつくるという計画骨子案を今日、事務局からお示いただき、ご説明をいただいたうえで、これについて皆さまのご意見を

いただくという回になっております。

この後は今月の下旬になりますが、分野別の意見交換、これを6月・7月と2回続けまして、その後、素案たたき台を8月・9月と2回ご議論いただきます。それをパブコメにかけてまた再開させていただくという予定でおりますので、本日は計画骨子案が主要な議題ということで、どうぞよろしくお願いいたします。

4. 計画骨子（案）について

*事務局より資料3、4について説明

■委員長

ただ今ご説明があったように、今日示された計画骨子案というのは地域・人・安全という軸を三つ設けて、それぞれの中で将来の姿とか施策とかについて基本計画を構成していく、そういう考え方だと思います。

10年前に策定した品川区の基本構想は、五つの都市像を示して、この五つの都市像ごとに将来の姿とかあるいは施策を示していったわけですが、ある意味、三つぐらいだと頭に入るけれども、五つだと多分、頭になかなか入りにくかったかもしれないので、10年前に五つあったもののうち、「だれもが輝くにぎわい都市」というのが主として今回の地域の中に入ってきて、それから10年前の計画では、「未来を創る子育て・教育都市」と「みんなで築く健康・福祉都市」というのが、今回は人への支援ということでまとめられていて、それから前回は「暮らしを守る安全・安心都市」、それから「次代につなぐ環境都市」というのが安全の中にまとめられている。多少そうでない入り繰りはあるのですが、基本的な軸はそういった形になっているというお話だと思います。

そういった考え方でよろしいかということと、それからその場合にどこに重点を置いてほしいかとか、そういったご意見を出していただければ、この後4回行います議論の中でこれらが具体的に出てまいりますので参考にさせていただくということだと思いますので、これらについて今日は皆さまのご意見を出していただくという回になりますのでよろしくお願いいたします。

指名はしませんので、できれば、どなたからでも、これは申し上げておきたい、言っておきたいというご意見があればどうぞご発言いただきたいと思います。

■委員

修正・加筆を2か所ほどお願いできればと思っております。

まず資料ナンバーの3でございます。資料3の中段、将来に向けた課題の4、将来人口推計でございますが、総人口について884人とかそこまで詳細なのは少し抵抗があります。できれば、例えば44万7,800人でも900人でも結構ですが、年少人口5万7,400人に合わせた形をご検討いただけましたら幸いです。それに伴いまして生産年齢人口も29

万 3,100 人でも 200 人でも結構ですが、何人までは少し、私の個人的な思いで残したくないなということでございます。

もう 1 点、加筆でございますが、次の資料ナンバー 4 でございます。素晴らしい計画骨子ができまして、概念図のところは少しもったいないなと。まず地域、にぎわいと活力を、とあるのですけれども、上の中段に合わせて、地域・にぎわいと活力を下の段に持っていただきたいということと、その上に行って、人・生涯をすこやかに共生というのを、また一番下の丸の下に入れていただきたい。安全に対しては、安全・住み良いまちづくり持続という言葉も、中段でいい言葉がございますので、こちら辺をぜひ加筆ということで、この概念図の中に入れていただく。少し下に余白がありますので、それぞれの丸の中に入れていただけるように検討願えないかという 2 点でございます。

■委員

今までの五つの都市像から三つのくくり方をして、これが地域と人、安全というのはなかなか面白い分け方だなと思いました。というのも、基礎自治体がやるべき仕事というのは、まさにこれだと思うのです。

もう一つ付け加えると、できれば、この施策例の並べ方ですけれども、やはり私は人が最初に来るべきだと思うのです。個別支援があつて、地域支援があつて、基盤があると、そういう組み立て方がよろしいかなと思うので、そのところをご検討いただきたいということと、せっかくここまで来たのだから、この三つの柱にぶら下がる施策項目についても、何かキーワードを置いてくくりをつくるということを考えたらいいのではないかなと思います。私は福祉が中心なので、例えば福祉でいうと、地域における支え合いとか引きこもりとかいろいろありますけれども、ここを結ぶキーワードは多分、孤立防止だと思うのです。今まで介護予防とかいうことをしきりに言われましたけれども、孤独ではなくて孤立防止、いわゆるセルフネグレクトとかいろいろな地域社会課題があると思うのですけれども、そこを通して一本の視点というのはそういうことだと思うので、そういう、せっかくだから、くくりをうまく考えていただけるといいかなと思います。

それから、上の施策の将来の姿のところの記述の中で左の、地域のにぎわいの部分の、これは並べ方の問題もあるでしょうし、世界とか国際とかいろいろ入っているので、基礎自治体として座りが悪い。東京都ならばこれでいいかなという印象があるので、むしろこれも並べ方の問題なのかもしれませんが、2 番目の地域がつながり活動が活性化している、ということをお願いいただけたほうがよろしいのではないかなと感じました。

■委員

一つは地域コミュニティの活性化というのがこれから大事ということで、活性化するためには地域のいろいろな団体間の協働が有効ではないかと思っています。町会・自治会でカバーできないところもあると思うので、そういうところを地域貢献活動団体と協力をし

で地域コミュニティの活性化を図るといことが一つの方策ではないかと思っています。

それともう一つ大事なことというのは、地域貢献活動団体を支援するというのも大事なことではないかと思っていて、団体活動ができるように各種の団体運営上の問題点を支援するような中間支援組織というもの、そういうものを充実させていく必要があるのではないかと思っています。今は協働ネットワークしながわとか、地域でつながるみんなの暮らし展ですとか、例年、来年もこれをやるのですけれども、来年はしながわ地域貢献活動展というもので品川にある地域活動団体の交流を図るといことで、これは現在もやられています。交流のほうはだんだん進んでいると思いますけれども、まだそういう団体の支援というか、活動をする上で困ったことが結構あります。資金的なこととか人材とか、いろいろな問題があるので、そういうところを支援して、町会・自治会とかと一緒に、なって地域コミュニティを活性化していくのがいいのかなと思っています。

もう一つ前回も申し上げたのですけれども、認知症カフェが現在進んでいまして、八潮地区で3つ、認定された認知症カフェが動いています。一つは「八潮みんなでまちづくり」が、「やしおカフェ」というのを毎月第2月曜日にやっています。場所は、こみゆにていふらぎ八潮というところ。それからもう一つは「品川総合福祉センター」さんが「オレンジカフェしなふく」というのを毎月第3水曜日に品川総合福祉センターでやっています。それから「八潮図書館」が「八潮としょかん Cafe」というのを第4月曜日に八潮地域センターでやっています。ということで、場所が三つと、時間的にも毎週1回まではいかないのですけれども、それぞれやっているということで、認知症カフェが現在、八潮では立ち上がっています。

認知症については啓蒙が一番大事なわけで、そのために地域貢献活動団体の皆さんが協働して、そうした団体のご協力をいただいて、認知症対応および健康づくりというか、そういうのを今やっているところです。

■委員

先日ご依頼いたしました品川健康プラン21の資料を用意していただきましてどうもありがとうございます。この中でも触れられているのですが、今回、人ということで健康に触れている部分で、この資料の中で健康寿命というものを、65歳健康寿命と定義付けられているのは、これはなぜかということをご質問したいと思います。こちらは昨今課題となっていますけれども、健康寿命という定義の中では、日常的継続的な医療・介護に依存しなくて自分の心身で生命維持し自立した生活ができる生存期間のことを指すというものになるのですが、実際には要支援であったとしても自立ができないという方々もたくさんいる中で、この65歳の健康寿命となりますと、中では平均寿命と同じような年齢までが健康だという定義になってしまうということにもなりかねないので、こちらのご質問ということになります。健康寿命という在り方をもう一度考え直すべきではないかという意見でございます。

そしてもう1点が、受動喫煙に関してですが、こちらは最近やはり品川区だけではなくて都内でも喫煙場所ができているのですが、どうしても出入口に喫煙場所を設けてあるという問題がございます。こちらは日本禁煙学会では、無風の状態でたばこの煙というのは到達点が直径14メートルであると。複数の喫煙者がいる場合にはこの2、3倍と言われている中で、こちら側の非喫煙者に対しての影響がない状態をつくるべきではないかということとともに、そちらを清掃する方々が非喫煙者であった場合の受動喫煙、こちらでも考えて整理をしていかなければいけないという意見がございます。

■事務局

健康寿命という言葉を使っている理由は何かということで、この健康モデルを、今回お配りをいたしました品川健康プラン21の8ページに、平均寿命と65歳平均寿命というのが載っております。いわゆる健康寿命と言いますのは、何らかの障害ですとか病気を持たずに自立して生活ができるときまでを健康寿命という概念として表すものでございまして、日本全国では厚生労働省等の研究班が各都道府県・市区町村の数値を出しているものでございます。

ただ、各自治体で毎年数値を出しているというのはなかなか、その形では難しいので、東京都の中では介護保険の認定の要介護2、それから要支援1の2通りの出し方で、かつ各市区町村、お互いに比較できるようにということで、この65歳の健康寿命を使って評価をしていくということです。先ほどの65歳健康寿命だと平均寿命とほぼイコールになってしまうのではないかというお話もございましたけれども、ほぼ、やはり4、5年とか、女性の場合はやはり5年ぐらいいは、そこに差が出てまいりますので、65歳健康寿命で評価をしていくという考え方を品川区ではもっているものがございます。

■委員長

これを長期基本計画で使うか、使わないかはまた別ですけども、先ほどのご意見は健康寿命をこういう形で捉えるのはどうかというお話だったと思いますけれども、今のお答えは、23区で比較する場合は東京都の評価方法で出し、これで比較する。そうすると品川区のほうは多少ですけども成績がいい、というのがこのプランに書いてあることです。これは前回も健康寿命の話が出たと思うのですけれども、意見は意見、お答えはお答えとして宿題にしておきたいと思っておりますのでよろしくお願いします。

■委員

1点だけお願いをしたいと思っております。地域・にぎわい・活力というお話が将来の姿というところにあります。将来の動向にも地域のつながりの希薄化というところがあって、次世代への技術や経験などの継承の必要性などというお話がありますけれども、これは品川区ということで、私も地域で生まれ育った人間でありますけれども、やはり今いる

いろな形で団体の方で地域コミュニティをいろいろつくっていかう、さまざまそういうことはいろいろあると思います。町会・自治会もいろいろあると思いますけれども、町会・自治会等も希薄化にいろいろなってきた部分もあったりするということであると、一つだけ、あえて将来の姿というところに加筆をしていただきたいというのを、書き出してほしいなということの一つだけ言います。それは地域の歴史・伝統・文化を継承している。この、している、となつていますので、地域の歴史・伝統・文化を継承している、という形のを1行書き加えていただいて、子どもたちも生まれ育っていくわけでありますから、その子どもたちにはこういうことも必要だと思っておりますし、地域でそういうことも皆さんで意識しながらやっていけるということが必要だと思っておりますので、そういう加筆だけお願いをしたいと思つています。

■委員

可能であれば、安全のところ、昨今さまざまなニュースがございますので交通安全、子どもたちを守る交通安全という部分を一言加えていただきますと助かります。地域防災力向上強化というところに包含して下さっているかと思つていますが、もし可能であれば、そういった表現も加えていただけると助かります。

■参与

資料ナンバーの4、計画骨子案についてですが、将来の計画をこの1枚に入れるということで、なかなか細かいところは書きにくいとは思つてはおりますけれども、これを見ますと、品川区という地域性とか、品川区だからこれをやるのだというところがほとんど見えないです。これはどこの区に持っていても通用してしまうものになっておまして、もう少しこれまで品川区が作り上げてきたこととか、あるいは品川区の地域性、風土性、そういうものをさらに発展させるような、どこかに品川らしさを感じられるような記述にならないのかなと強く感じております。

それから概念図も、概念図を見たらやはり中身が想像されるという意味では、安全のところ、魅力的な都市景観とか、水辺空間の整備とか、私は観光を専門にしておりますが、少し何か違和感がありまして、それぞれ丸の中をキーワードで人・地域・安全と3つにしたのはよろしいかと思つてはおりますが、もう少し何か言葉を足した方がよい気がします。

地域も、上の説明には国際とかスポーツとか、さらに前のほうにはインバウンドみたいな話もあったのですが、ここにはそういうものも欠けてきていますし、この概念図などももう一度やはり見直しが必要なのかなと感じました。

■参与

計画骨子案についてですが、この前のときにもご指摘させていただきましたようにSDGsの扱いです。例えば地域・にぎわい・活力に関し、SDGsに関わる項目を抽出されたのでは

ないかと思えますけれども、SDGs というのはそれぞれの項目にマトリックスでかかるような項目ではないかなと理解しているのです。そういう意味で概念図の中に SDGs というのが背景、将来動向の中にありますけれども、これは品川区の姿勢にもよるかと思うのですけれども、品川区が SDGs を目指すということでありましたら、SDGs の丸を真ん中に入れ、この丸と、各項目との共通部分にあらゆる人々の活躍とか健康などが入るべきではないかなと思えます。そのようにして SDGs でもってそれぞれの項目を連携させて達成するという図になるといいのではないかなと思えます。

■委員

今日示された計画骨子案についてですが、まず地域・人・安全と三つの柱に分けられておりますが、やはり私も人を第一に位置付けて、人・地域・安全の順がよいかと思えます。区民がいきいきと働き生活できることがあっての品川区ですので、人を大事にするのが上かと思えます。

その上で、今後 10 年間の計画ですが、それでは今までの 10 年間の計画はどうだったのかということで、改めて読み直しましたが、具体的に特養ホームについてです。これまでの計画では特養ホームについて、在宅での介護に対する安心感を確保するため老健整備とともに在宅生活が困難になった場合のセーフティネットとして特養ホームの整備と言っておりましたが、この 10 年間の計画の結果、現在どうかというと、これまで述べてきましたが、特養ホームの入所は希望の 2 割以下で、8 割以上の方が特養ホームに入れません。60 代や 70 代で急に介護が必要になった場合でも在宅介護期間が短いこと、審査基準では年齢が若いことを理由に、要介護 5 でも特養ホームに入れません。前回の計画で在宅介護の安心環境を掲げましたが、安心どころか、不安や家族の悲痛な訴えが寄せられております。セーフティネットは全く機能しておりません。そこで特養ホーム整備を重点施策にレベルアップされて、国や公有地をはじめ民間の土地を購入して整備することを明記し、特養ホームや同じく整備が遅れております障害者施設の整備について、具体的な数値目標を明記すべきだと思います。

また、地域・にぎわい・活力ですけれども、結局一番先に具体化されるのがタワーマンション開発や高層オフィスビル開発です。区内でも多くの駅前にて高層化が進み、従来の商店街やまちなぎわい、活力を奪っていると思います。急激な人口増で、朝の駅のホームや電車の混雑がもう本当に深刻です。数十億円規模で税金が使われる超高層再開発はもうやめるべきだと思います。

また、この安全・あんしん・持続の中に防災対策がありますが、特に巨大地震の被害が起きたとき、死因の一番は住宅の崩壊であり、火災の原因の一番は通電火災であり、また劣悪な避難生活による震災関連死も深刻です。これらを防ぐ未然の対策について、住宅の耐震化、耐震ブレイカーや避難場所や在宅避難を含めた避難生活支援計画が先だと思いますし、とりわけ高齢者・障害者への支援の強化は重要だと思います。これまでも述べまし

たが、延焼遮断帯など防災で役に立たない 29 号線などの道路計画はやめて、住民の土地を買収する 880 億円もの税金は、こうした被害を防ぐ防災対策にこそ充てるべきだと思います。

最後に社会保障についてですけれども、今までの計画では「みんなで築く健康・福祉都市」とされて、地域の中でお互いに助け合い、支えあい、生涯にわたっていきいきと暮らすという環境でした。医療や介護など障害があっても誰もが暮らしを続けることができる支援に品川区が責任を負うことは地方公共団体の本旨です。社会保障を住民同士の助け合いに置き換えてはいけないと思います。住民同士の助け合い、ボランティアは大切なことですが、問題は社会保障を住民同士の助け合いに置き換えてはいけないということです。

いずれにしても、これらの計画、品川区の行政計画、品川区民の生活を根本から壊してしまうのが羽田新飛行ルート計画です。品川区として低空飛行計画を撤回させ、区民と暮らしを守るための行動計画をこの基本計画に盛り込むべきだと改めて述べたいと思います。

■委員

スポーツのところで、地域の活力のところでスポーツが暮らしの一部に溶け込んでいるという項目がございます。今、私たち地域スポーツクラブを四つつくっておりますが、それはやはり学校施設を使っておりますので、学校の施設で皆さんが十分スポーツを楽しめるということがなかなかできません。学校の授業、行事によって使えなくなってしまうということがございますので、下の地域のコミュニティのところに、スポーツ施設の充実というのを入れていただきたいなと思いますのでよろしく願いいたします。

■委員

健康づくりとしましては、今年度フレイルについて勉強会というか、ある程度どうしたら立ち上げられるかということをやっていきたくと思っています。ただ、そのときに健康づくりだけでは多分無理だと思うので、横のつながりと言うのですか、役所はどちらかという縦ですよね。上からこうやって下りてくるだけ、横のつながりというのはあまりないので、それをどうにかしてほしいですね。だからフレイルをやるときに、横でどういう人たちに手伝ってもらえるかとか、そういうのを考えてほしいと思っています。

■委員

横のつながりという意味では、実は産業分野がそうできて、人口が非常に増えており、新しい会社も入ってきておりますが、なかなか新しい流入してきた会社と既存の会社の横のつながりというのができませんものですから、そういったものを明記していただきたい。これは実はあらゆる分野でそういった空気がある。いろいろな新しい方が入ってきて、もともといる方との問題がありますので、その視点が必要ではないかということが 1 点です。

もう一つは人口が増えるということですが、これは細かい行政の計画でしょうけれども、人口が増えることに対して、例えばインフラのキャパシティ、その辺はいかがでしょうかという質問でございます。

■委員長

人口増とインフラのキャパシティの問題は区役所が考えていると思います。そもそも都市計画の容積率はキャパシティを超えてビルやマンションが建つとライフライン等の供給が間に合わなくなる。政策も間に合わなくなるということで容積率を課しているの、当然考えていると思います。何か事務局で特段のお答えとかはありますか。

■事務局

例えば子育ての施設ですとか、それから学校の施設につきましては常々、人口推計というものを我々のほうでも勘案しながら、将来どの程度必要になるということ、それから高齢者についてもやはりそういった推計を基に検討を進めているというところです。

■委員長

委員がおっしゃるのは、もっとインフラの整備を推進しないといけないのではないかと、そういう話ですか。そうではないですか。

■委員

いや、インフラをやるにしてもやはり SDGs とかが必要、持続性とかが必要ですので、いったん増えますけれども、多分減ってしまうはずですから。

■委員長

それは大切な視点だと思いますので、また議論を重ねたいと思います。多分、今回、人口の予測が出ていますけれども、それについては対応する必要があるし、こうやって対応していくべきだという考え方で人口増を出していると思います。夜間人口もそうだし昼間人口も両方、ライフラインや公共施設等の人数は夜間人口だけが要求するわけではなくて昼間人口のほうも要求するのでしょうか。それは、実は今の都区の仕組みからいうと、区だけではなくて都全体でもだと思えますけれども、多分ちょうど今回の 10 年計画のタイミングがいいのは、東京都はグラウンドデザイン、まず長期ビジョンを決めて、グラウンドデザインを決めて、それから土地利用計画を全て決めましたので、4年かけて三つの基本的な計画をつくりましたので、そういう意味では都全体の人口、昼間・夜間を含めてですけれども、基本的には対応していくという考え方で、長期ビジョン自体は計画部門でつくりましたけれども、その後の都市づくりのグラウンドデザインと土地利用計画は都市整備局が事務局になってつくりました。都の計画ですけれども都市整備局が事務局でつく

りましたので、当然その用意はするという考え方だと思います。でもこれは、だからいいということではなくて、この長期基本計画づくりの中で検証していくこととして受け止めておきたいということだと思います。

■委員

品川区に限ったことではないのですけれども、国際化と言いますか、在日、在住の外国人が品川区でも増えているかと思います。それで国際結婚の場合、相手が外国人で、日本の文化になかなかなじめなくて戸惑うことがあります。ですので、この計画骨子案についての下のところ、子育てをする国際結婚への支援というのを入れてもらえればいいと思いました。

■委員長

23区全体でいうと、いわゆる在留韓国・朝鮮人をとっくに超えて中国人の外国人登録が一番多くて、韓国・朝鮮人で、その後がベトナム人、フィリピン人と続きます。これは23区全体の場合にそうなのですから、品川は品川の特徴があるので、恐らく品川はより多様ではないかと思います。

■委員

日本の病院では日本語と英語以外は対応が難しいところがあり、ずいぶん戸惑ったりするので、そういった支援をいただければ助かると思いました。

■委員

最近、働き方改革問題が大きく出てきていると思いますけれども、これから時間、余暇時間と言いますか、増加してくるのではないかなという、その受け入れ態勢がこれからどうしても必要になってくるだろうと。前回、町会・自治会になかなか入りにくいかいろいろ話やご意見がございましたけれども、それとはまた別に、これからの働き方改革、これからの10年でだいぶ変わってくるのではないかという感じがいたしますけれども、その辺の視点で何かないかなという感じがしています。

■委員長

それも重要な問題提起だと思います。今日の計画骨子案では、まだ現状これが課題になっているところまでは出ているのですけれども、今後10年で世の中が大きく変わるといってお話は、今ここで具体的に出せといっても無理な話なのですけれども、でもそれはおっしゃるとおりだと思います。

■委員

二つありまして、一つは計画骨子案について、資料4の部分で真ん中のオレンジの部分、人の部分です。子どもがまちの中で元気に成長しているという言葉で、本当に言葉尻のことかもしれないのですけれども、少しその元気というあたりが上辺だけというか、子どもは明るくて元気で仲良くしているものというような、大人目線のようなことを少し感じました。具体的なすごくいい言葉が思いついているわけではないのですけれども、例えば、すこやかにとか元気という、大人が思っているような感じで、子どもは常に元気かという、やはり多様化している社会の中で子どもは子どもなりにいろいろなことを感じながら生活しているなということを感じますので、ここの言葉に関しては少し皆さんからのご意見もいただければと思いますし、事務局でお考え直していただければと思います。

あともう1点は、この10年間の計画というのは基本的に、この地域に居住している人を対象にした計画ということなのではないでしょうか。それとも前回、参与の先生から就労している場合に品川区内に勤めているのか、区外の人もいるのかというお話で、昼間の人口、夜間の人口が変わってくるところで、この地域づくりというときに、昼間、品川区にいるのは在留している人が多いのか、それとも外から働きに来ている人が多いのかという話があったときに、そこで私が思い出されたのが、私自身も参加しているのですけれども、自主的に清掃活動をしている団体が今、増えてきていて、いいことではないかと、それ自体は思うのです。

ただ、自分が生活している中で、ここ数年ポイ捨てのごみを見かける機会が本当に多くなったというのが実感でして、公募させていただく際も、応募の作文とかそういったところにも書かせていただいたのです。比較的、地域に住んでいる方はやはり愛着をもって地域の景観だったり、きれいさだったりというところに気持ちが行く部分があるのですけれども、もしかすると働きに来られている方は、必ずしもそうだという証拠があるわけではないのですけれども、意識が違うのではないかと思うのです。その辺りの人たちに対する魅力の発信というか、そういったこともこの計画に含まれるのか。その辺りを教えていただければと思います。よろしく申し上げます。

■事務局

居住をしている方に向けた計画なのかという質問ですが、決してそういうことではございません。区に働きに来る方、そういった方に向けての施策ですとか、あるいは働いているときに例えば地震があったときの避難の計画ですとか、居住している人向けということではなく、お仕事それから学業等でいらっしゃる方に対しての施策というものについても検討するという計画でございます。

■委員

ありがとうございます。そうすると、さっきもお伝えしたみたいに、そういう方に向けた魅力の発信、これを計画骨子案でやっていくのかというあたりは難しいかと思うのです

けれども、具体的に愛着を持っていただけると、景観やまちのことにに関して考えていただける機会にもなるのかなと思いました。

■事務局

少し補足ですが、今の地域のところの施策例の丸ポチ左側三つ目、企業・大学等との連携強化というのが入っています。右下の施策例の地域のところの左側の列の丸ポチの三つ目、企業・大学等の連携強化です。これは区内の企業と CSR 協議会という形で、いろいろな地域の貢献活動をやっているという形で、平成 22 年からスタートしておりますが、参加企業も増えてきております。

また大学につきましても区内の 6 大学と協定を結んでいます。まだそこはスタートした段階ですけれども、大学生とかがきちんと品川区というものをどういうふうに捉えて、どんなことをしてもらいたいかということやどんな形で学生たちと進められるかということも検討しておりますので、在住者だけでなく在勤者・在学者も含めてのものをやっていきたいと思えます。

■委員

まちづくりの点でバリアフリーのまちをつくるという言葉があったらうれしかったなと思います。例えば最近だとマンションとかが建つと公開空き地ですかね。歩道上の誰でも通れる道ができるのですけれども、歩道が広がっていいなと思って車椅子で進むと、土地の所有者が変わるところに壁がある。自分の縄張りを主張するように壁がある。結局道路に出て、また隣の公開空き地に入って進む。その先に行くと、その場所は品川区が管理している歩道上の土地です、というところがあって、そこを進む。そうするとその先は自販機が置いてあって、車椅子はそれ以上進めない。道路に下りようと思うと段差があって下りられない。品川区が管理しています、と書いてあるのですけれども、進めなくて結局その歩道に上がったところまで車椅子は戻る。中途半端なバリアフリーというか歩道のつくり方みたいな。やっていますよというのではなくて、きちんとしたバリアフリーのまちをつくるという計画にしていただけたらうれしいなと思います。

■委員

町会・自治会活動ですけれども、このごろ町会・自治会活動が衰退している傾向があるというご意見を言っていただきますけれども、その理由とすると少子高齢化という、そんな言葉で片付けられてしまうところもありますけれども、私が活動をしている限りでは決してそういうことはありません。もしかしたら多少地域性があるかも分かりませんが、それから地域によっては町会・自治会活動がすごく充実しているものもございます。それから品川区では町会・自治会の活動を支援する、町会・自治体加入促進等について結構早めに区の条例ができていまして、他の区とか市ではまだまだこういう条例ができていないとこ

ろもたくさんあるなかで、品川区はそういうところでは結構早く取り組んでいただいたということで、私は、品川区は大変住みやすいところで、いいところだと思っています。また次の長期基本計画も今までのように進めていただけたらよろしいかと思っております。

■ 参与

今日は計画骨子案という非常にマクロなテーマでございますので、個別施策はともかくとして、その中で将来の姿を見据えた10年間の計画ということは、これだけ変化が激しく予測も立たない中での10年計画は大変だと思います。ただ、はっきりしているのは、人口構造とか社会構造はかなり20年30年先まで見えているものはございます。そういう先を見通すことで今、2040年問題ということがよく言われて少子高齢人口減少社会というお話でございますが、品川区は実は少子ではない。高齢化は進みますが人口も減らないという、日本全体の構造変化の中でかなり特異な変化をしている。そういう意味で、将来の姿を見据えたというのは、少なくともはっきり押さえられる人口構造や社会構造は共通認識としてデータを少し整理していただいて、その中で品川区も日本全体の中で共通する課題もあるかもしれませんが、実はかなり、さっきお話があったように、品川固有のという部分で、歴史・文化だけではなくて、ここから10年先の世界は品川固有の状況を迎える要素がかなりあると思われまますので、可能な範囲で、できればそういう関連データを共有させていただいて、その中で、では、品川は本当にみんながこのまち、地域で幸せに住むために何があらゆる分野で課題なのかという整理が必要だろうと思います。少しマクロな視点で、10年20年先ぐらいまでを見据えた、そういう構造データを示していただいて共有化させていただくと、少し話が、横串も通しやすくなるかなと思いますので、そういう感想を持ちました。

■ 参与

先ほど話があったSDGsとの関係、この後、説明があるということだったのですが、私も別のところで総合計画に関わらせていただいて、SDGsという言葉が結構いろいろな形で使われるのですけれども、本当にどう組み込んでいいのか、本当に迷っているところがございます。

といいますのも、SDGsというのが、今回この丸三つに関係している、その中心核の一つ置いたらどうだろうかという先ほどのご提案だったのですが、今回全体像の枠の中で、例えば品川区の特徴として、SDGsの場合には発展途上国もあれば先進国もあれば、それぞれの地域性によって、それぞれいろいろなプログラムの中の特徴的な要素の強さ・弱さ、あるいはできているところ・できていないところ、そこをどうやって補っていくかという関係性の中での自分の位置付け、地域の位置付けをどう考えていくかという、そんなアプローチなのかなと思ったときに、先ほど中心核の中と人あるいは地域・安全という、それとのキーワードにつなげていくやり方、これも一つあるだろうし、あるいは環状につなげて

いく中で連携していくことに位置付けていくというやり方もある。

そういった中で、品川区として、先ほど品川が見えないというお話もございました。品川区の中で本来求めているレベルは一体どういう方向性なのかということをやはり事務局の中でご検討いただいた中で、品川区にとってやはり踏み込んでいく SDGs の特徴的な要素って何なのだろうかというところを少し整理していただくといいかなという気はいたします。

それともう1点ですが、安全とあんしんというのは結構キーワードとしてつなげて使われる用語でもあり、意味として安全とあんしんは全然違ってくるといいう使われ方もします。ですので、この総合計画の中の安全という、ある意味、防災であるとか環境であるとか、そういった保全型のアプローチの安全の話と、住んで安心という暮らしの問題と、こういったところがやはり両面出てくるので、その辺の位置付けをどう考えるのか。

例えば安全の中には、質の高いインフラというキーワードも入ってはいるのですが、その質の高さの中には、例えば自然とか環境を保全するようなグリーンインフラみたいな考え方もある。そういったところを考えると、本来ハード系のインフラとそういった環境保全のインフラと、あるいは人というものを支える、それこそ生活性のインフラもある。やはりそういったところの位置付けの使い方を少し丁寧にされたほうがいいかなという気がいたします。

■委員長

ありがとうございました。それではそろそろまとめたいと思います。まず今日皆さまからいただいたご意見としては、順番や表現は別として、地域・人・安全ということで、これを柱として計画を構成していくということについては、そのこと自体には反対のご意見はなかったと思いますので、そういったことで次回以降、具体的な内容を中心にお示しいただいて議論していくということによろしいかと思いますが、そういう理解でよろしいですね。

地域が先か、人が先かという論点の一つあったと思います。確かに地域・人と分けてしまうと、そういう言い方を私がしたから悪いのですけれども、そうすると人が先でしょうという話にもなるし、今回の10か年計画は単身世帯が非常に増えてきていて、これから単身世帯のほうが世帯数のうち過半数になるという、そういう予測になっています。そういう意味ではますます地域における人と人とのつながりというものがとても大切になっていくという意味では、もしかすると今後の10年の最初は地域と言い切らないで地域の活力とか、ここには最初の1行目に書いてあるのですけれども、地域における人のつながりの強化とか、活動の活性化と理解すると、今回の10か年計画の特徴はこっちが先だという意見もあるかもしれない。まだ私は決めていないのですけれども、あるかもしれないということで、これはまたこれから議論していくということによろしいかと思います。

それから健康寿命という、少し次元の違う具体的な問題の話がありました。ここでは将

来の姿で、今日はまだ例示なのですけれども、健康寿命が延伸し、といきなり 1 行目に出てくるので、健康寿命から受けるイメージと、出していただいた「しながわ健康プラン 21」で示している 23 区、東京都共通の定義でいうと、すぐにはこのグラフの定義が連想できないということがあったと思う。もしかすると健康寿命という言葉がいきなり出てこなくて、将来の姿としては、要はアクティブシニアで元気で暮らせる期間をなるべく長くするという一般的な意味だったら、多分、異論はないかもしれないので、そういったところも含めて今後の宿題ということではないかと思います。

あと、特にインフラは大丈夫なのかということがありましたけれども、それは確かにあるので、特に人口が増えますといろいろなものの需要が増えますということも確かなので、その辺を計画の中でどう表現していくかということも宿題になったのかなと思います。

少し私の意見を言うと、地域のつながりの強化や活動の活性化が大切になってくるし多文化・多様性、SDGs などの取り組みが求められているというのが、この骨子案の最初の考え方として出ているので、そうするとこの地域が最初に来て、将来の姿でいきなり情報通信技術等の活用というのがいきなり来るのはちょっとどうだろうか。そうではなくて、この趣旨からいうと多分、最初に来るのは地域における人のつながりというのが最初に来ると自然に入れるのかなとも思います。今日はそれを決める場ではないので、基本的に地域うんぬんと人うんぬんと安全うんぬんという三つの骨子で、軸で構成するということについては大方の皆さんの共通理解が得られたということで、次回以降に進むことにさせていただきます。

5. その他

(1) 参考資料について

*三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング(株)より参考資料 2、3 について説明

■委員長

ありがとうございました。時間の関係で一括して取り扱いたいと思います。質問とか、それからこれらをもとにこれからこうしようとか、そういうご意見があればどうぞご発言いただきたいと思います。

■委員

将来動向についての 23 ページ、高齢化の進展に伴う特殊詐欺ですけれども、この表を見せていただいて、いずれも 27 年 28 年は減少しているのですね。これは何か対策が功を奏したとかでしょうか。

■三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング(株)

確認して後日ご回答とさせていただきます。

■ 参与

参考資料 2 の 8 ページのインバウンドというのが計画の骨子でも出てまいりましたけれども、ここで大事なのは、インバウンドが日本に、これからどうなっていくのかということだと思っております。今、国の計画では、目標では、2020 年に 4,000 万人。昨年は 3,100 万人ぐらい行きました、オリンピックの年に 4,000 万人、それからその 10 年後、2030 年に 6,000 万人という目標に、ちょうどこの計画の目標が大体 6,000 万人となっていて、これはどうなるか分からないところもありますけれども、そういう大事な数字は書いておいていただきたいと思っております。

それに関係するのは、やはりそういう時代になると、品川区にはないのですけれども、羽田空港がまたさらに拡張されて、そこを日本のゲートウェイとしての羽田しかり、品川区にも多分大きな影響があると思っております。交通ですね。それから隣接することになってしまっても、リニア新幹線みたいなものがあって大きな開発が進もうとしているところについても、やはり将来の動向としては考えていかなければいけないのかと思っております。

これとは関係ないのですが、この中で情報技術の進展というのと、あと AI の説明をされておりました。先ほど質問しようと思ったのですが、計画の骨子の中では情報通信技術の進展という形で書いてありますが、情報通信技術と AI は違うものです。今、AI が非常に話題になっておいて、AI の進展が社会をどう変えるのかというあたりはできる限り見通しを立てておいていただきたいと思っておりますし、前のほうの計画の骨子はそういうふうには修正をされたほうがいいのかと思っております。

■ 委員

今日の資料で仕事と生活の調和をライフ・ワーク・バランスという表現をされているのですが、一般的にはワーク・ライフ・バランスだと思うのですが、ライフが先に来ているのは理由があるのだらうと思っておりますが教えていただければと思っております。

■ 事務局

ライフ・ワーク・バランス、それからワーク・ライフ・バランス。言葉にしたら両方あるというところがございます。東京都はライフ・ワーク・バランスという言い方を使っている。それから国はワーク・ライフ・バランスという言い方を現時点では主に使っているというところがございます。ただ、品川区の中ではっきりと定義ということで決めたということではございませんけれども、区としてはマイセルフ品川プランという計画の中ではワーク・ライフ・バランスという言葉を使わせていただいておりますので、最終的にはそちらの言葉に統合していく流れにならうかと思っております。

(2) 今後のスケジュールについて

*事務局より参考資料2、3について説明

6. 閉会

以上